
不幸な神様のギフト

衫矢木 紅葉

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

不幸な神様のギフト

【Nコード】

N7368Y

【作者名】

衫矢木 紅葉

【あらすじ】

巨大な運命に飲み込まれていく。絶望だけが自分の一生だと嘆く、世界に十二人しかいない星座の巫女の一人、牡羊座の守護者アリエス・シュテム。そして予言によりそいつのパートナーに選ばれてしまう至って普通の高校生、俺、澱篠 清霧。

驚くべき事にもうすぐ彼女は消滅してしまい、世界は滅びてしま
うと言っ！！

たった唯一それを阻止できる方法。彼女達、星座の巫女を狙う組織
それぞれが螺旋に交じり合う時、物語は流転していく。

俺はなぜ……

ドカアアアアアアーン！！

枯れ木が軒並み目立つ寂寂しい山に、激しい爆発音が響いた。

それももう一回じゃない。何十回という数だ。

そして、俺、澱篠 清霧はそれにかつてないほどの戦慄を覚える。冷や汗が、頬、背中を濡らし足は立っているのが精一杯だった。

(一体どうなってんだよ……！！！)

胸中にそう吐き捨て、怯えながらも気丈に周囲の状況を見渡す。

辺りを照らすのは月光と手に持つ懐中電灯しかなく、真夜中な事もあってか暗闇が俺の視界を阻む。

やはり爆発が起こっていること。それしか情報の収集がつかない。頭が恐怖とパニックで混沌になっていく。

しかし、これだけははつきりと覚えている。俺をここに連れてきた張本人。あいつだ。

唐突に憤怒の炎が俺の中から溢れ出してくる。

自分の同情的な性格の不甲斐なさと後悔も一緒に。

あいつをぶつ倒す。あいつを……

そんな非生産的な行動が頭を更に犯していく。

だがふと、ほんのわずかだけ残っていた正常な部分が奇跡を起こし、それを俺に気づかせた。

なんでこんな重要な事を忘れていたのだろう……

そう何より先に追求せねばいけない事だった。

俺、なんでここにいるんだっけ？

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7368y/>

不幸な神様のギフト

2011年11月22日02時00分発行